

## A Study on a Drama Approach in TJFL Class : Using Drama to Motivate Learners

演劇的手法を用いたある日本語授業実践報告：  
学習者の表現力を伸ばす装置としての演劇

**Yuka Nakayama**  
(Waseda University)

本発表では、演劇的手法を用いて行われた日本語授業の実践報告を行う。報告を行う授業は、中上級レベルの学習者を対象とした日本語クラスである。活動は「舞台演劇作品を制作し、上演会を行う」ということを具体的な目標とした。本授業には、学習者、担当教員の他、日本人ボランティアが参加し、作業を進めていった。

本発表では、演劇的手法を「4技能の能力向上」に直接結びつけるというよりは、むしろそれが学習者の自己表現の動機付けとなるという側面に着目する。「作品作り」ということによって学習者に「表現欲求」をかきたたせる。それをどのように表現したらいいか、模索することによって、思考を深めていく。また、集団で何かを作る場合、複数の表現欲求が衝突する。そこにコミュニケーションの必要性が生まれる。共同作業である以上、他者に理解してもらおうよう努力し、また、他者を理解しようという姿勢が必要となる。

演劇は、学習者の「想像する心」を引き出す装置と考える。まず、身体を使い、リラックスさせることで、自己を開放し、想像力を促す土壌を作る。そして、自分は何を欲しているのか、自分にとって何がよくて、何が悪いのか、何を美しいと思うのか、といった、学習者の心の中にあるイメージを見つめ、それを言語化する作業を行う。

本発表では、授業の活動、具体的には、授業の導入として行ったシアターゲームの役割及び効果、学習者が関心を持ったテーマ、授業中及びメーリングリスト上での話し合いの過程、立ち稽古で相談をしながら作品を作り上げていく過程を検証し、考察を加える。また、学習者の活動の検証のみでなく、日本人ボランティアの果たした役割についても述べる。さらにプラン全体や担当教員のあり方について振り返り、いかにして学習者が想像力を広げ、表現できる環境を作ることができるかを考え、今後の示唆としたい。